

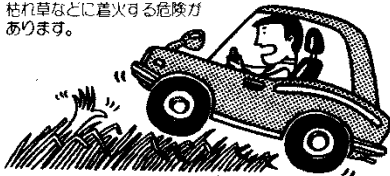
このような取り扱いは危険ですからやめてください！
(トヨタからのお願い)

注意

駐停車について

■駐停車するときは枯れ草、わら、紙、布、樹脂、油、古タイヤなど燃えやすいものの付近や上に駐停車しないでください。

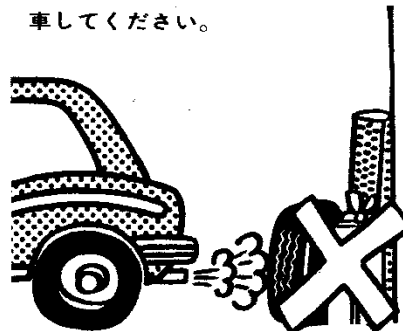
排気管付近はかなり高い温度になるので、万一の場合、枯れ草などに着火する危険があります。



★注意

1. 走行後の排気管は高い温度になりますので燃えやすいものが近くにあると着火する危険があります。
2. エンジンを空ぶかししたり、高回転を長く続けたりした場合には、排気管からの排気ガスが燃えやすいものに当たり着火する危険があります。

■車庫内に停車するときはあらかじめ後方の確認を十分行って燃えやすいものがないことを確かめてから停車してください。



★注意

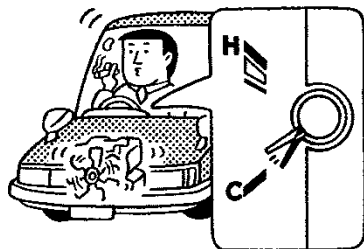
1. 排気ガスは場合によっては高い温度になるので万一の場合わらなど燃えやすいものに着火するおそれがあります。
2. 木材、ベニヤ板などが車両後方にある場合は、車両後端を30cm以上はなして止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、着火する危険があります。

エンジンの 始動について

■始動前には車両後方に燃えやすいものがないことや排気管に枯れ草などが巻きついていないことを確かめてください。

■密閉した車庫内ではエンジンをかけたままにしないでください。ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、必ず換気をよくしてください。

■適切な暖機運転をしてください。



エンジンが冷えているときは、出力の低下、走行性能の悪化など車の性能が十分発揮できません。

(30ページの「エンジンのかけかた」の項目を参照してください。)

★注意

1. 暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。始動後約30秒(外気温20℃のとき)で、アクセル・ペダルを軽く踏んで足をはなし回転を下げてください。(EFI、ディーゼル車を除く)
2. 暖機運転中は車からはなれないでください。

■バッテリーあがりのとき車を押したり、けん引によるエンジン始動をしないでください。

触媒装置の温度が異常に高くなり焼損するおそれがあります。

(161ページの「バッテリーあがりの処置」の項目を参照してください。)



走行するとき は

■次のような取り扱いはしないでください。触媒装置を焼損するおそれがあります。〈ディーゼル車を除く〉

1. 走行中にエンジン・スイッチを切ること。
2. エンジンを高回転にした直後にエンジン・スイッチを切ること。
3. 充電警告灯が点灯または電圧計が11V以下を指示したまま運転を続けること。
4. 燃料計がE以下になった状態で運転を続けること。

■暖機が不十分な状態で発進時、極端にアクセル・ペダルをあおることはやめてください。未燃焼ガスが触媒装置に流れ、触媒装置を焼損するおそれがあります。〈ディーゼル車を除く〉

■排気温警告灯が点灯したときは触媒装置の温度が異常に高くなったことを示します。〈ディーゼル車を除く〉



このまま運転を続けると触媒装置が焼損するおそれがありますので必ず次の処置をしてください。

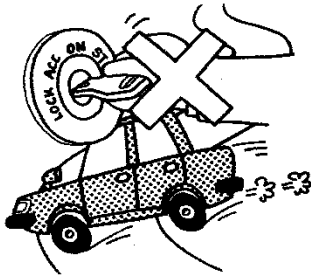
1. 警告灯が点灯したときの、半分程度に速度を落としてください。
2. 速度を落としても消灯しない場合は、枯れ草などの燃えやすいものがない場所に停車してください。
3. 停車しても消灯しない場合はエンジンを止めてください。約10分間エンジンを止めた後、エンジンを始動して消灯しているか確認してください。

警告灯が消灯した場合はもとのように

走行できます。再び点灯する場合はそのまま使用せず点検を受けてください。(16ページの「排気温警告灯」の項目を参照してください。)

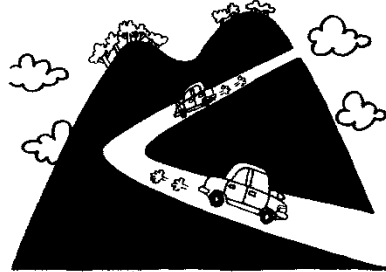
■枯れ草などの燃えやすいもののある場所や、フロア下面に枯れ草などを巻き込むおそれのある場所での走行はさけてください。

- 走行中エンジン・スイッチは絶対にACCまたはLOCKの位置にしないでください。



1. ブレーキ倍力装置（ペダル踏力軽減装置）が作用しないため、ブレーキの効きが悪くなります。
2. パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）付き車は、ハンドル操作が非常に重たくなります。
3. LOCKの位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがきれなくなり危険です。

- 長い坂道を下るときはフット・ブレーキとエンジン・ブレーキ(※1)を併用してください。



- フット・ブレーキを踏み続けると、ベーパー・ロック(※2)やフェード現象(※3)を起こし、ブレーキの効きが悪くなることもあり危険です。ただし、ぬれた路面または氷雪路での急激なエンジン・ブレーキの使用はさけてください。

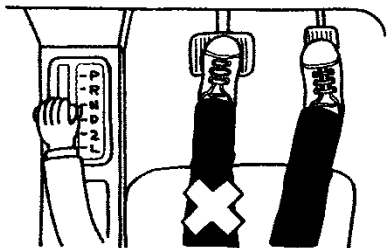
(※1)エンジン・ブレーキとは、走行中アクセル・ペダルから足をはずしたときにかかるブレーキ力。低速ギヤほどエンジン・ブレーキはよく効きます。

(※2)ベーパー・ロックとは、ブレーキ液が加熱されて、沸騰し泡が

発生し、ブレーキ・ペダルを踏み込んでも、気泡を圧縮するだけで、ブレーキ力とはならない現象。

(※3)フェードとは、ブレーキの摩擦面が、加熱されると摩擦力が減るので、同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象。

- オートマチック・トランスミッション車の場合、ブレーキ操作は必ず右足で行なってください。

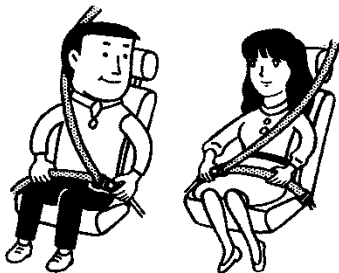


左足でブレーキを踏んだまま、右足でアクセル操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキ・パッドの摩耗を早めるおそれがあります。

- 高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときはハンドルをしっかりとって、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。

急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ危険です。

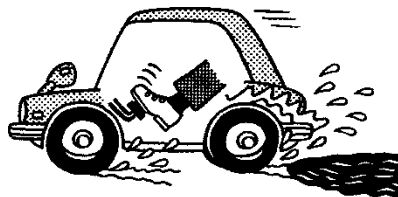
- シート・ベルトは必ず装着してください。



腰部のベルトは腰骨の位置にぴったりと装着してください。

(53ページの「シート・ベルトの装着」の項目を参照してください。)

- 深い水たまりを走行した後あるいは洗車後は、ブレーキが効かなくなったり、効きが悪くなったりするおそれがあります。ブレーキ・ペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。

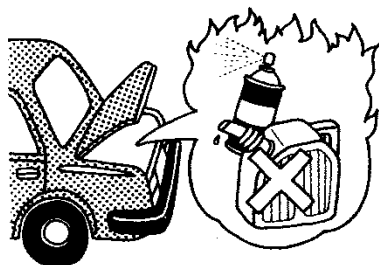


ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に十分注意してブレーキ・ペダルを軽く踏んで、完全に効く状態になるまで低速で走行し、ブレーキのしめりをかわかしてください。

安全のため に

■車内およびトランク内に燃料がはいった容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。

蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



■運転席付近に物を置かないでください。



フロアにころがってブレーキ・ペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなるなど危険な場合があります。

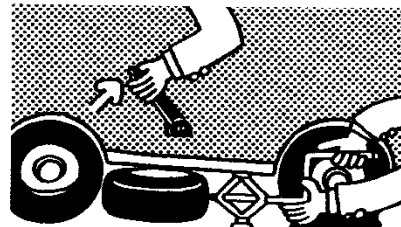
■水温が高いとき、ラジエーター・キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯がふき出し、危険です。



■ジャッキを使用するときは正しい位置にセットしてください。

また、駐車ブレーキ、輪止め（とう載工具に含まれています）を忘れないようにしてください。

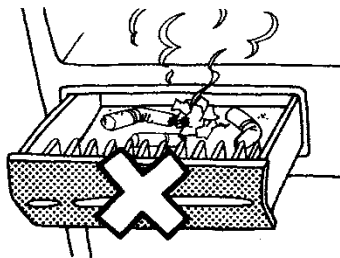
（152ページの「タイヤ交換」の項目を参照してください。）



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

■ 灰皿を使用したあとは必ずしめてください。

あけたままにしておくとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり、火災になるおそれがあります。

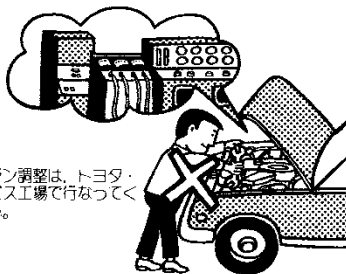


★ 注意

1. 灰皿には吸いがらをためすぎないでください。
2. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
3. マッチ、タバコなどの火は消してから灰皿の中へ入れてください。

故障を防ぐために

■ 自己流のエンジン調整は行なわないでください。部品は勝手に取りはずさないでください。



エンジン調整は、トヨタ・サービス工場で行なってください。

■ 燃料を補給するときは

ガソリン車

必ず無鉛ガソリンを補給してください。



有鉛ガソリンやガソリン添加剤を使用すると触媒装置の浄化性能を損います。

ディーゼル車

必ず軽油を補給してください。

■ ターボ車のエンジン・オイル、オイル・フィルター交換は必ず定められた時期に行なってください。

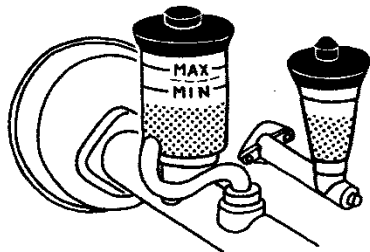
1. エンジン・オイル、オイル・フィルターの交換を行なわないと、ターボ機能を損うおそれがあります。
2. エンジン・オイルは必ず下記のものを使用してください。

トヨタ純正キャスル・モーター・オイル	他の銘柄のオイルを使用する場合
クリーンエクセレント クリーンロイヤル クリーンゴールド クリーンスーパー クリーンカスタム (注1)	API基準SF, SE, SD (ディーゼル車はCD, CC) 相当でSAE粘度分類 10W-30(注2)以上の オイル
ディーゼラックスS-3 ディーゼラックス・ スペシャル ディーゼラックス	

(注1) SAE20を除く

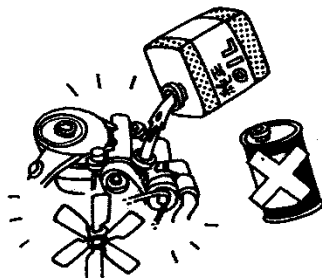
(注2) SAE20, 5W-20, 5W-30, 7.5W-30, 7.5W-40などは使用しないでください。

■ブレーキ液、クラッチ液が不足しているときは



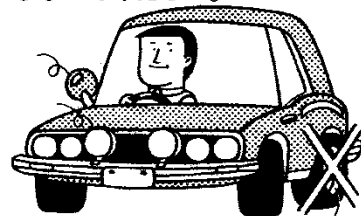
1. 液の減りが著しいときは、早目にトヨタ販売店で点検を受けてください。
2. 応急処置として補給するときは、タンク内にゴミがはいらないよう十分注意してトヨタ純正ブレーキフルード2400Gを使用してください。
3. ブレーキ液に粗悪品を使用したり他の銘柄品を混用するとブレーキ系統に悪影響をあたえ危険です。

■エンジン・オイルを交換するときは



1. オイルは、トヨタ純正キャッスル製品またはAPI基準SF, SE, SD (ディーゼル車はCD, CC)相当のものを使用してください。
2. エンジン・オイル添加剤を使用するときは、トヨタの推奨する添加剤を使用してください。
3. オイルを補給するときは同品質のオイルを補給してください。質の異なったオイルを使用するとエンジン性能が低下するおそれがあります。

■走行装置などの重要な箇所の改造をしないでください。



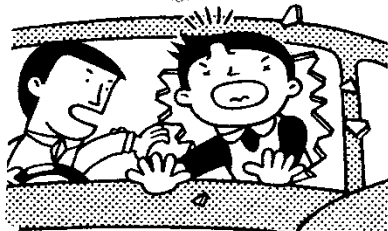
車の性能や機能に適合しない部品を装着すると思いがけない事故が発生する場合があります。

1. トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると違反になります。
フォグ・ランプ、ラジオ、ステレオなどアクセサリーを取り付けるときはトヨタ販売店にご相談ください。
2. EFI (電子制御式燃料噴射装置) 車およびESC (電子制御式横すべり防止装置) 車は無線装置を取り付けるとエンジンに異常をきたすことがあります。
3. L.S.D.(リミテッド・スリップ・ディファレンシャル) 付き車は応急用タイヤを使用しないでください。走行不安定またはディファレンシャル損傷のおそれがあります。

お子様を乗 せるときは

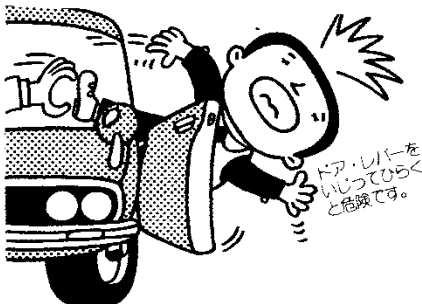
■なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせてください。

万一のとき放り出される
心配があります。



1. 助手席ではお子様の動作が気になり安全運転のさまたげになります。
2. 運転装置、装備などにさわると思いがけない事故がおきるおそれがあります。

■ドアを確実にとじ必ず施錠してください。



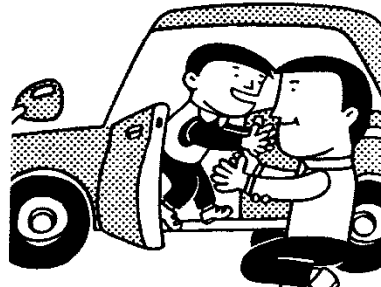
お子様をリヤ・シートに乗せるときは、チャイルド・プロテクター（74ページ参照）をご利用ください。

■必ずおとながドアの開閉をしてください。



■車からはなれるときは、お子様と一緒に連れて行ってください。

お子様のいたずらにより車の発進、火災などの思いがけない事故がおきるおそれがあります。また、炎天下での車内は高温となりたいへん危険です。



■窓やサン・ルーフから顔や手などを出させないようにしてください。

